

建築甲子園 甲府工高がV

県勢初 ブドウ棚の通路提案

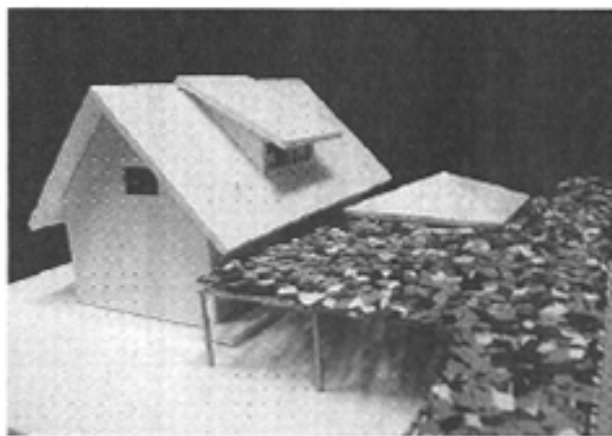


賞状を受け取る深沢司さん(中央)、末木聖人さん(左から3人目)、斐辰吾さん(同2人目) 甲府工高

全国の高校生が住宅設計のアイデアを競う「第3回建築甲子園」(日本建築士会連合会主催)で、甲府工高建築科3年生3人のチームが、県勢初の全国優勝を果たした。3人は道路に接する住宅の敷地内にブドウ棚を設け、通行人がアーケードのように利用することなどを提案。道路と私有地の境界を分かりにくくすることで、地域住民の交流を促す効果を期待した。3人は「結果に満足せず、今後も建築について深く学んでいきたい」と目を輝かせた。

〈樋川義樹〉

優勝したのは建築科3年の 甲府市、同校定時制建築科の県予選を勝ち抜き、全国38
深沢司さん、中央市、末木聖人の桜井良明教諭が監督を務め 都道府県の代表校がそろそろ12
人さん、笛吹市、斐辰吾さん。3人のチームは昨年11月 月の全国大会に進出。設計内



3人が提案した「甲州ぶどう産木通り」の民家の模型。私有地の縁にブドウ棚を設けて歩道として提供し、通行人が使えるアーケードのようになっている

容をまとめたパネルの審査で、優勝が決まった。

全国大会のテーマは「地域のからし」。3人は「甲州ぶどう産木通り」と題したプランを提案した。「雁木」は豪雪地帯の新潟県上越市でみられる住宅からせり出した雪よけの屋根で、軒下は歩行者が通行できる。3人は屋根部分

を県特産のブドウ棚にするアイデアを提案した。雁木をブドウ棚にすることで、葉が伸びる夏は強い日差しを防ぎ、井戸端会議や休憩の場としても使えるほか、秋

には近所の住民と協力してブドウを収穫することもできるという。住宅には無尽が使えるスペースも設けた。

東京芸術大名誉教授の片山和俊審査委員長は「一番の魅力は分かりやすく、素直なこと。無理なく実現でき、面白い地域環境になりそうだった」と評価した。

リーダーを務めた深沢さんは「グループで一つの設計を作り上げる難しさも感じたが、全員で協力した結果が受賞につながってうれしい」と話していた。